

宮川直轄河川改修事業

【再評価】

説明資料

平成30年12月3日

国土交通省 中部地方整備局
三重河川国道事務所

目次

1. 流域委員会と事業評価監視委員会との関係について…………	1
2. 事業の概要	
1)流域の概要 ……………	2
2)主要洪水 ……………	3
3)事業の目的及び計画内容 ……………	4
3. 評価の視点 事業の必要性等に関する視点	
1)事業の投資効果 ……………	5
2)事業費の変更 ……………	6
3)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ……………	10
4)事業の進捗状況、進捗の見込みの視点 ……………	11
4. 県への意見聴取結果 ……………	12
5. 対応方針(案) ……………	12
6. 第21回三重河川流域委員会における審議…………	13

1. 流域委員会と事業評価監視委員会との関係について

事業評価の実施について

(国土交通省所管公共事業の再評価実施要領 第6の6)

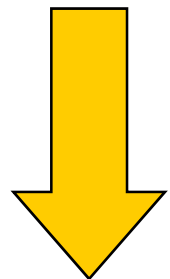
河川事業、ダム事業については、**河川整備計画策定後、計画内容の点検**のために学識経験者等から構成される委員会等が設置されている場合は、事業評価監視委員会に代えて当該委員会で審議を行うものとする。



三重河川流域委員会での事業評価の審議について (平成30年10月29日:第21回三重河川流域委員会)

(規約2条4項)

流域委員会は、河川整備計画に位置付けられる事業の計画段階評価、**再評価**及び事後評価(河川整備計画策定前の実施事業も対象)について審議を行う。



審議の視点

- 事業の必要性等に関する視点
 - 1.事業を巡る社会経済情勢等の変化
 - 2.事業の投資効果
 - 3.事業の進捗状況、進捗の見込みの視点

審議結果の報告

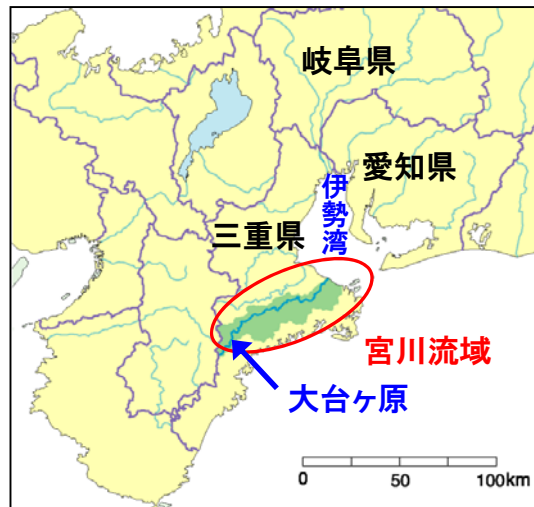
(河川及びダム事業の再評価実施要領細目 第6)

実施要領第6の6の規定に基づいて審議が行われた場合には、**その結果を事業評価監視委員会に報告**するものとする。

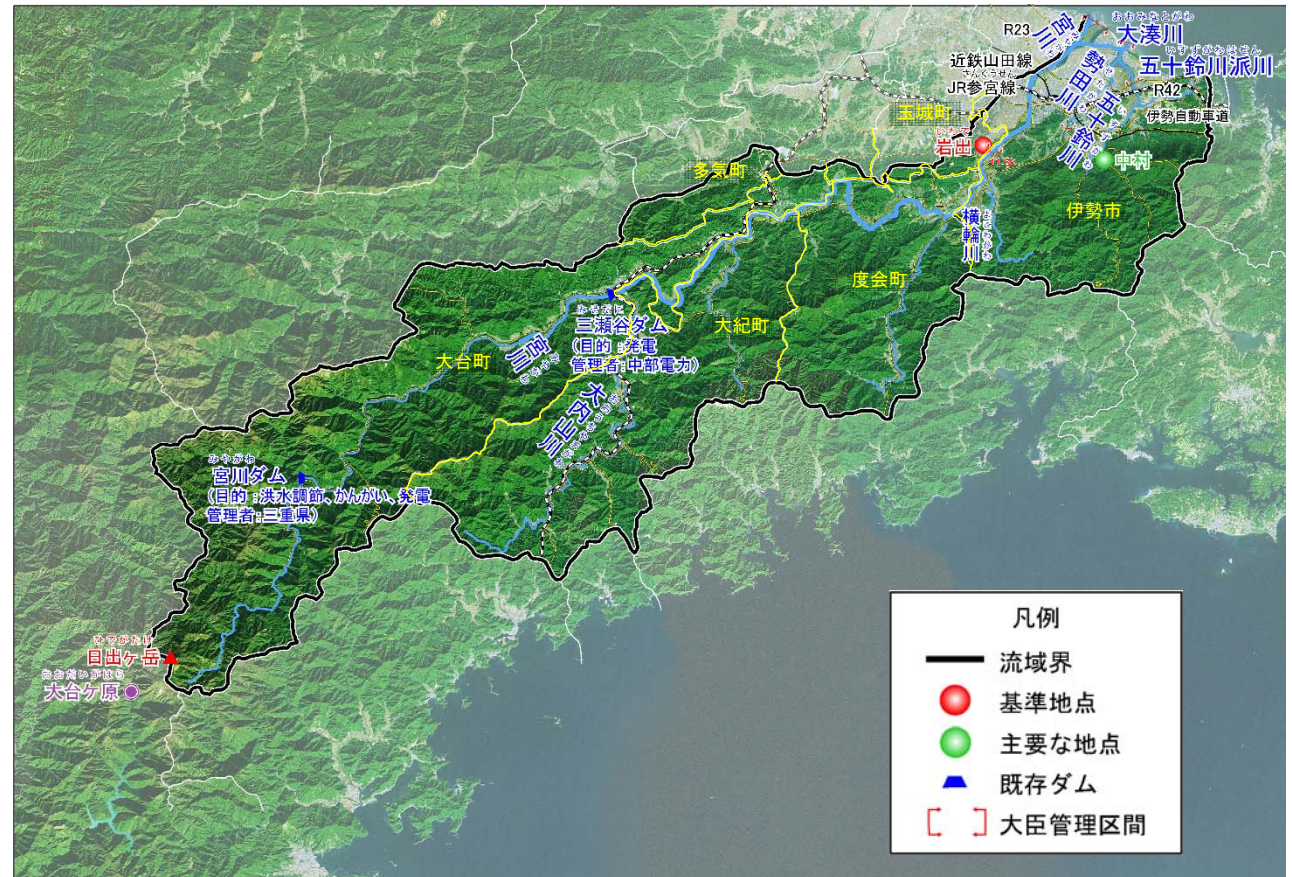
2. 事業の概要

1) 流域の概要

宮川は三重県の南部に位置し、その源を三重県多気郡大台町と奈良県吉野郡上北山村の県境に位置する日出ヶ岳（標高 1,695m）に発し、大内山川等の支川を合わせて伊勢平野に出て、河口付近で大湊川を分派し、その後、伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長 91km、流域面積920km²の一級河川です。また、支川五十鈴川は、五十鈴川派川を分派し、河口付近で支川の勢田川・大湊川を合わせ、伊勢湾に注いでいます。



項目	諸元
幹川流路延長	91km
流域面積	920km ²
流域関連市	1市5町
流域内人口	約14万人



流域図

2. 事業の概要

2) 主要洪水

宮川水系においては、昭和49年7月の台風第8号や昭和57年8月の台風第10号により、勢田川が氾濫し伊勢市の広域で浸水被害が生じました。近年では、平成16年9月の台風第21号、平成23年9月台風第12号、平成29年10月台風第21号により、伊勢市では床上浸水や路面冠水等の浸水被害が生じました。

発生日月	原因	洪水流量※1 (岩出地点)	浸水面積※2	浸水家屋※2	
				床上	床下
昭和13年8月	低気圧による豪雨	約8,400m ³ /s (推定)	宮川下流部の堤防決壊により、城田村、御園村、宇治山田市において浸水が発生		
昭和34年9月	伊勢湾台風	約4,700m ³ /s	高潮により海岸堤防が被災し、伊勢市の人家等の被害が激しく、被災者は約9万人		
昭和49年7月	台風第8号	約5,200m ³ /s	3,051 ha	3,224棟	10,924棟
昭和57年8月	台風第10号	約6,000m ³ /s	974 ha	453棟	2,059棟
平成2年9月	台風第19号	約6,500m ³ /s	0.5 ha	—	76棟
平成6年9月	台風第26号	約7,300m ³ /s	105 ha	27棟	72棟
平成16年9月	台風第21号	約7,800m ³ /s	174 ha	184棟	86棟
平成23年9月	台風第12号	約8,400m ³ /s	316 ha	108棟	82棟
平成29年10月	台風第21号	約7,300m ³ /s	3,034 ha※3	409棟※3	670棟※3

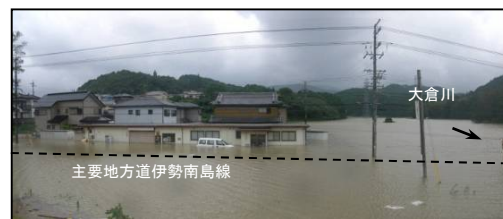


昭和49年7月洪水
浸水状況(伊勢市駅前)

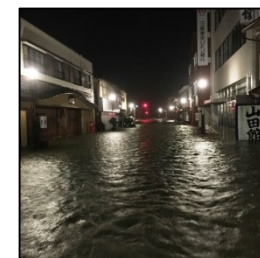


平成16年9月洪水
堤内地浸水(宮川右岸7.4km付近) 3

※1: 流量はダムの洪水調節や氾濫がないとした場合の計算値
 ※2: 浸水面積及び被害の出典「水害統計」
 ※3: 伊勢市調査結果



平成23年9月洪水
洪水における浸水状況(大倉川流末)



平成29年10月洪水
内水浸水状況(外宮参道) 3

■ 主に宮川付近による浸水被害
 ■ 主に勢田川付近による浸水被害

2. 事業の概要

3) 事業の目的及び計画内容

平成27年11月に策定した「宮川水系河川整備計画」、及び「水防災意識社会 再構築ビジョンの取組」などを、概ね30年間で段階的に整備を進めています。

【事業概要】

事業費 : 約147億円

事業期間 : 2015年度(平成27年度)～2044年度

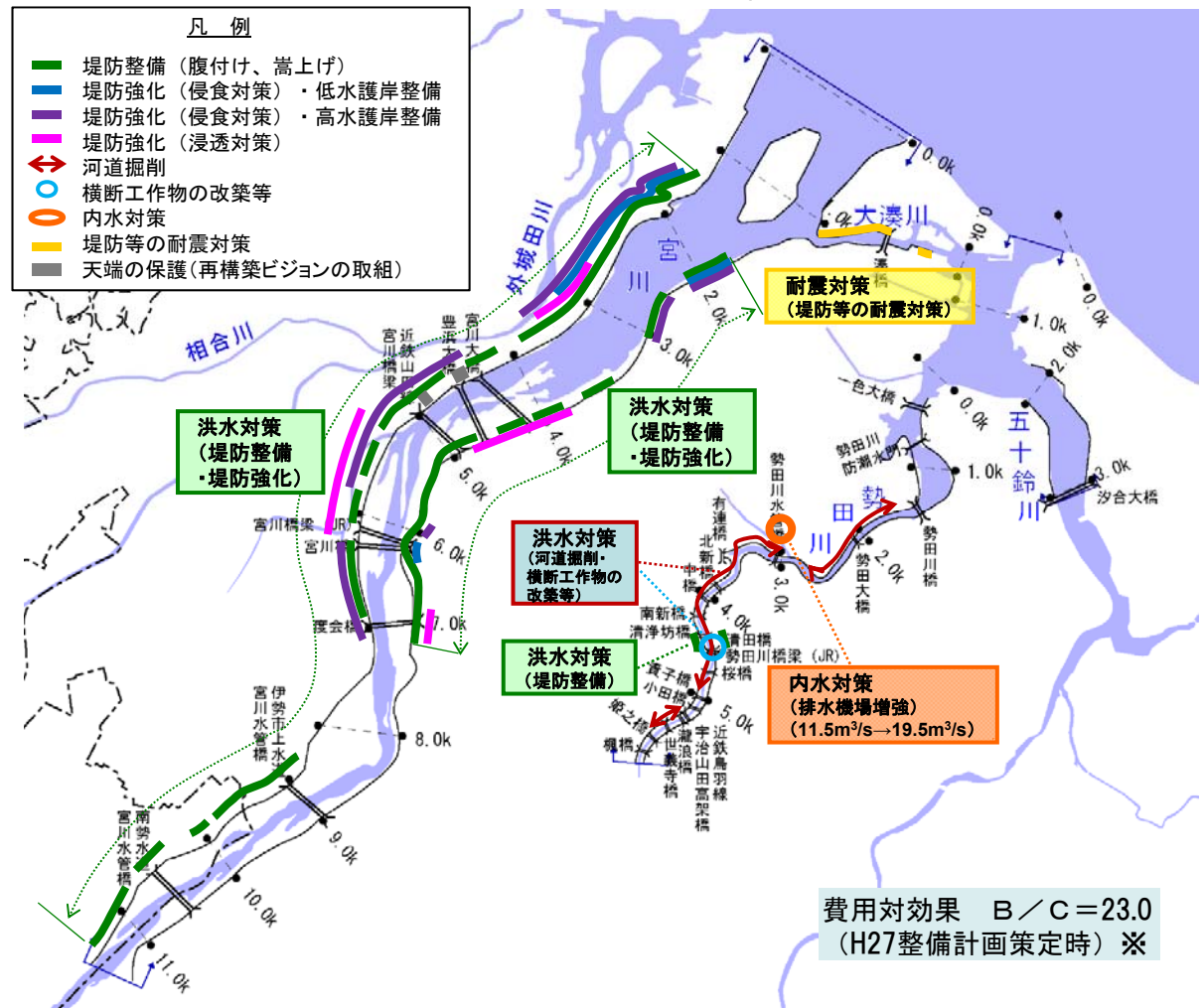
▼河川整備計画での主な整備内容

河川名	整備内容	
宮川	堤防整備 (腹付け、嵩上げ)	11.1km
	低水護岸整備	2.4km
	高水護岸整備	5.9km
勢田川	堤防整備	0.4km
	河道掘削	79千m ³
	横断工作物の改築	1橋
	内水対策 (桧尻川排水機場 増強)	1施設
大湊川	堤防等の耐震対策	1.1km

▼水防災意識社会 再構築ビジョンの取組

河川名	目的	整備内容	
宮川	危機管理型 ハード対策	天端の保護	約0.07km

▼河川整備計画の整備メニュー・水防災意識社会 再構築ビジョンの取組箇所位置図



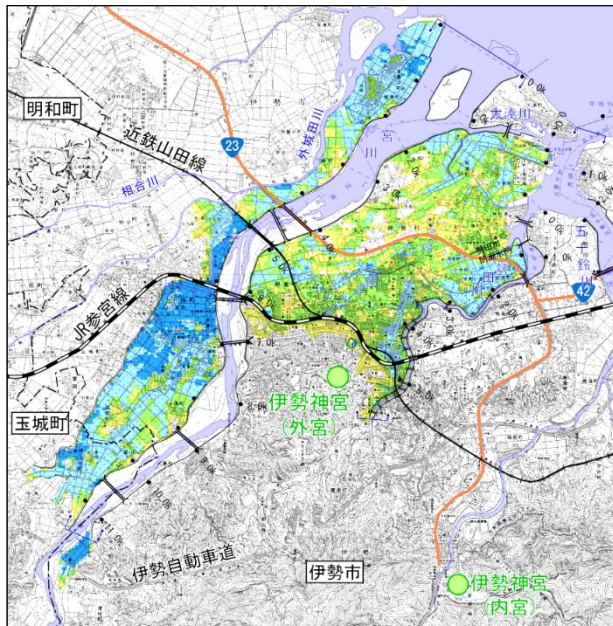
※今回の事業評価では、前回評価時において実施した費用対効果分析の要因に変化が見られず、かつ、費用対効果分析を実施することが効果的でない判断できるため、費用対効果は実施しないものとする。

3. 評価の視点 事業の必要性等に関する視点

1) 事業の投資効果

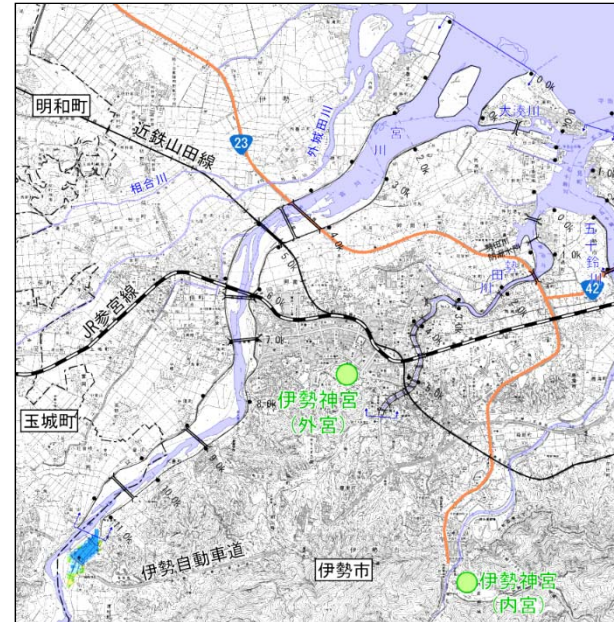
河川整備計画の目標規模の大雨（戦後第二位洪水：平成16年9月洪水）が降ったことにより想定される事業実施前の氾濫被害は、浸水面積：約1,900ha、浸水区域内人口：約40,200人、浸水家屋数：約14,900戸であり、整備を実施することで浸水被害は低減します。

事業実施前

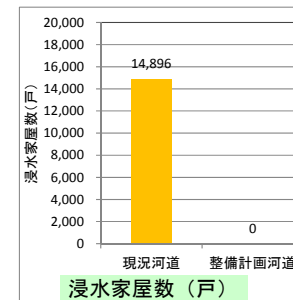
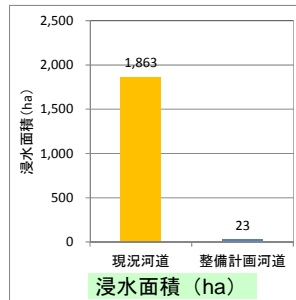
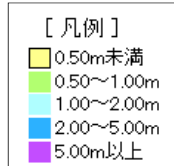


事業実施前の氾濫想定図(河川整備計画目標洪水)

事業実施後



事業実施後の氾濫想定図(河川整備計画目標洪水)



浸水被害軽減効果(現況河道⇒整備計画河道、整備計画流量流下時)

3. 評価の視点 事業の必要性等に関する視点

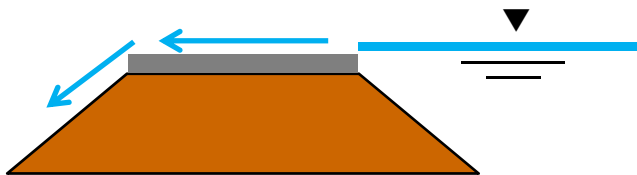
2) 事業費の変更 (水防災意識社会 再構築ビジョン 危機管理型ハード対策)

「水防災意識社会 再構築ビジョン」として、全ての直轄河川において、2020年度を目処に水防災意識社会を再構築する取組を行っています。

その取組の一環として、越水等が発生した場合でも避難する時間を確保するために、堤防決壊までの時間を少しでも引き延ばす『危機管理型ハード対策』を実施しました。

これにより、**約1千万円**の事業費の増額が必要となりました。

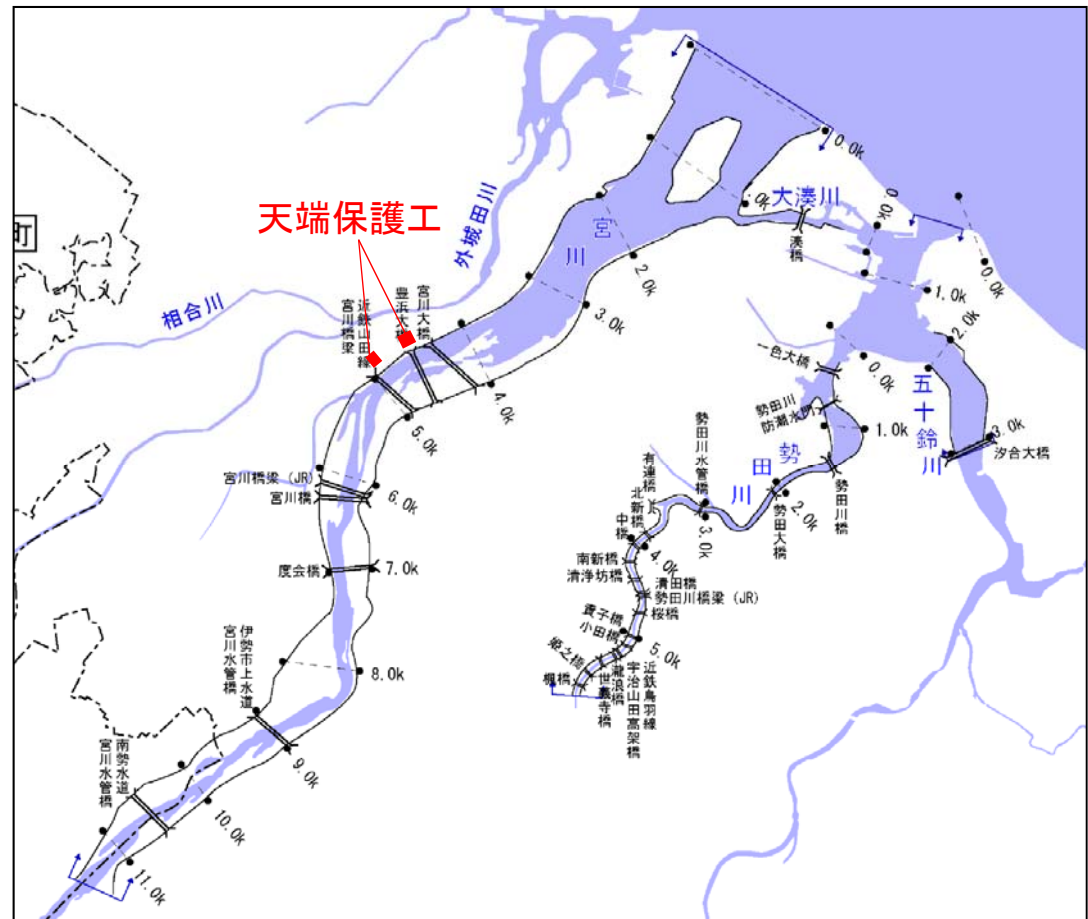
	実施区間
天端保護工	0.07km



堤防の天端を保護（舗装）し、法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



宮川左岸4.4k付近

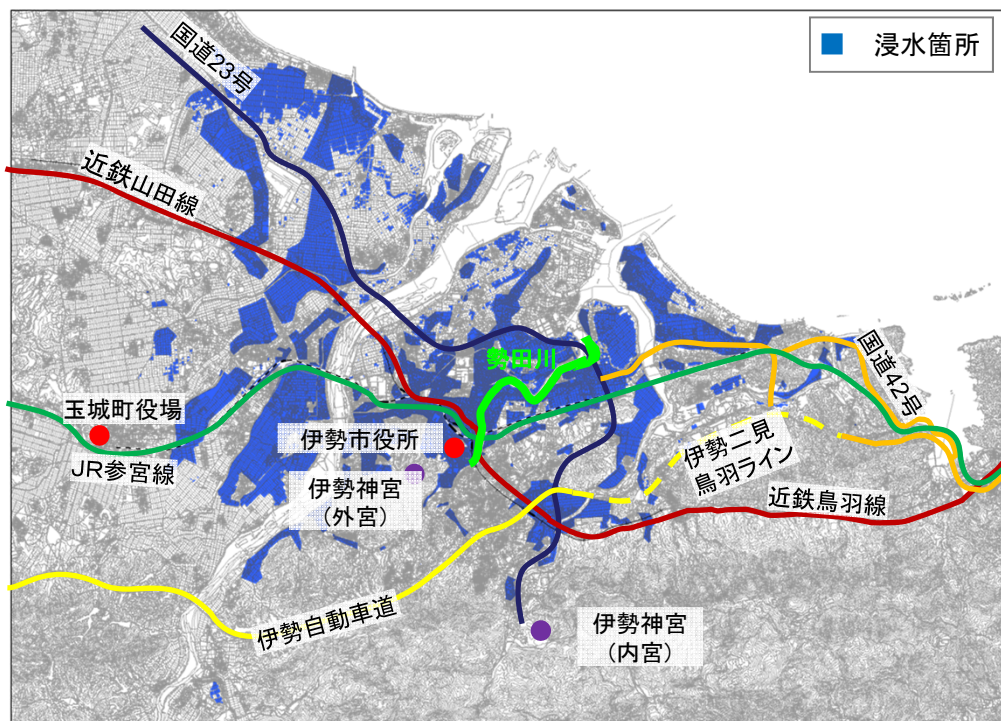


3. 評価の視点 事業の必要性等に関する視点

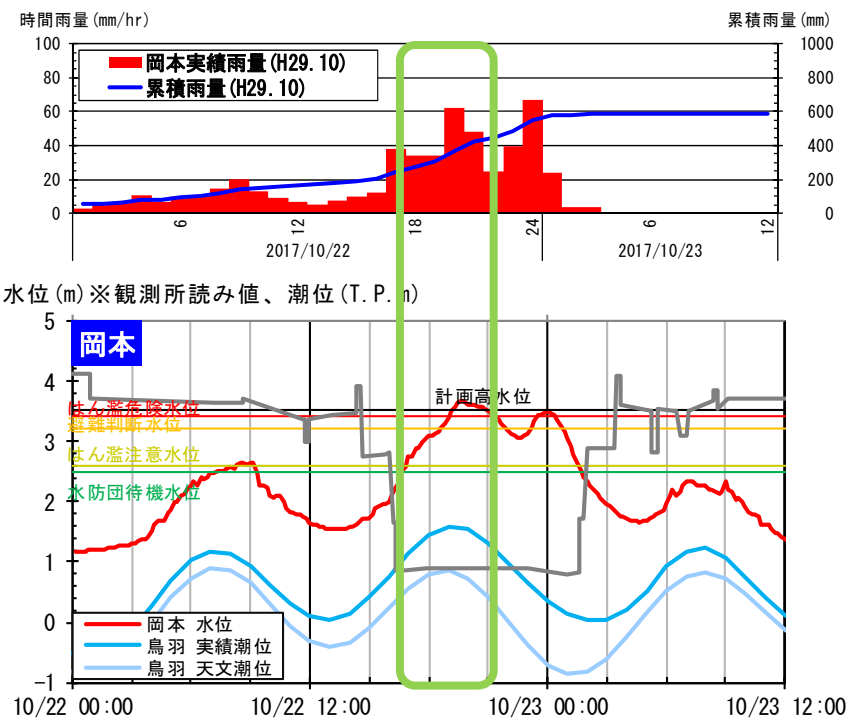
2) 事業費の変更 (平成29年10月 台風第21号対応)

平成29年10月台風第21号では、満潮と台風による高潮・大雨のピークがほぼ同時に発生した影響もあり、雨水排水不良による内水被害に加え、勢田川等の溢水も生じ、広範囲で浸水被害が発生しました。

▼ 宮川下流部における浸水状況



▼雨量と水位、潮位



家屋等の浸水場状況、床上浸水家屋判定 (平成30年3月9日時点:伊勢市調べ)(単位:棟)			
床上浸水	床下浸水	店舗、倉庫等の浸水	合計
409	670	773	1,852
一部破損	半壊	大規模半壊	合計
323	73	13	409

3. 評価の視点 事業の必要性等に関する視点

2) 事業費の変更 (平成29年10月 台風第21号対応)

平成29年10月台風第21号洪水の浸水被害を受け、流域全体で、関係機関（伊勢市・三重県・国土交通省）が浸水被害軽減に向けた取組を実施するために「**勢田川流域等浸水対策協議会**」を平成30年1月に設立し、より効果的な対策を一体的に進めるための「**勢田川流域等浸水対策実行計画**」を平成30年6月に策定しました。

計画の中で、国土交通省は、**短期整備**として、宮川水系河川整備計画の整備メニューである勢田川の堤防整備や河道掘削、椀尻川排水機場ポンプ増強などを実施してまいります。平成30年度台風期までに危機管理型水位計の設置や緊急的な堤防嵩上げを完了させ、現在、堤防整備や河道掘削を実施しています。

今後、平成29年10月台風第21号洪水を契機に、宮川水系河川整備計画の見直しの検討を行い、**中長期整備**は、見直し後の河川整備計画を踏まえて実施していく予定です。

伊勢市

危機管理部
産業観光部
都市整備部
上下水道部

三重県

県土整備部
農林水産部
防災対策部
伊勢建設事務所
農林水産事務所
南勢志摩地域活性化局

流域全体

国土交通省

三重河川国道事務所

ハード・ソフト対策の
一体的な取組による効果的な
浸水被害軽減対策の推進



【平成30年10月現在】

- 実施済み
- H30年度末まで完成
- 実施中・今後実施

区分	カテゴリ	No.	対象河川(流域)	内容	事業主体	実施する目標期間	
						短期計画 (今後5年程度)	中長期計画 (今後20~30年程度)
ハード対策	河川整備	1	勢田川	緊急的な堤防かさ上げ	国土交通省	■	
		2	勢田川	河道掘削	国土交通省	■	
		3	勢田川	勢田川排水機場ポンプ増強	国土交通省	■	
		4	勢田川	逆流防止フラップ弁設置	伊勢市	■	
		5	椀尻川	椀尻川排水機場ポンプ増強	国土交通省	■	
		6	椀尻川(指定区間)	河道掘削	三重県	■	
		7	椀尻川(指定区間)	河川整備	三重県	■	
		8	椀尻川(準用河川)	河川整備	伊勢市	■	
ハード対策	雨水排水	9	勢田川・椀尻川流域	下水道整備	伊勢市	■	整備計画策定 3排水区整備を集中的に先行実施 黒瀬ポンプ場ポンプ増強
		10	勢田川・椀尻川流域	流域における総合治水対策	国土交通省 三重県・伊勢市	■	
ソフト対策		11	勢田川	危機管理型水位計の設置	国土交通省	■	
		12	勢田川(指定区間・準用河川)	危機管理型水位計の設置	三重県 伊勢市	■	
		13	勢田川流域	洪水浸水想定区域の指定・公表	国土交通省	■	
		14	勢田川(指定区間)流域	洪水浸水想定区域図の作成	三重県	■	
		15	勢田川流域	洪水浸水想定区域の説明会の実施	国土交通省 伊勢市	■	
		16	椀尻川(準用河川)	危機管理型水位計の設置	伊勢市	■	
		17	椀尻川流域	洪水浸水想定区域図の作成	三重県	■	
		18	椀尻川流域	洪水浸水想定区域の説明会の実施	三重県 伊勢市	■	
		19	勢田川・椀尻川流域	ハザードマップの更新	伊勢市	■	H29年度更新 (勢田川流域、H29年10月浸水実績)
		20	勢田川・椀尻川流域	防災啓発体制の強化	伊勢市	■	
		21	勢田川・椀尻川流域	伊勢市防災大学の開催	伊勢市	■	
22	勢田川・椀尻川流域	伊勢市防災コーディネーターの認定	伊勢市	■			
23	勢田川・椀尻川流域	防災教育の強化	国土交通省 三重県・伊勢市	■			

3. 評価の視点 事業の必要性等に関する視点

2) 事業費の変更

整備途上で施設能力以上の洪水が発生した平成29年10月洪水による溢水防止のために、緊急的に約60cm程度の嵩上げを実施しました。
 これにより、**約26百万円**の事業費の増額が必要となりました。

◆勢田川右岸3.9k付近



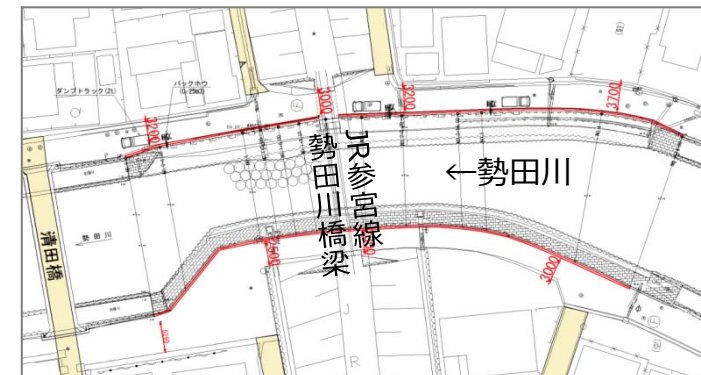
◆勢田川左右岸4.6k付近



◆勢田川右岸3.9k付近



◆勢田川左右岸4.6k付近



3. 評価の視点 事業の必要性等に関する視点

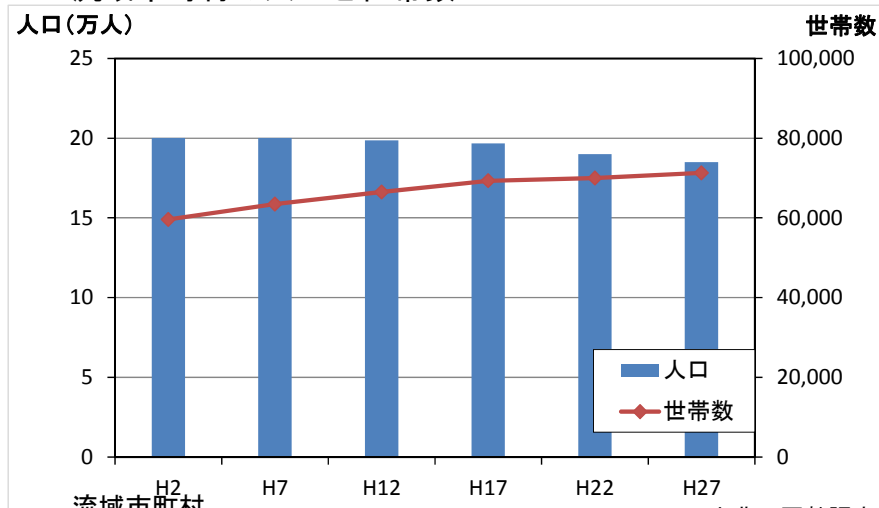
3) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

近年、宮川流域市町村の人口はやや減少しておりますが、世帯数は増加しています。

流域の下流部に広がる伊勢平野には、伊勢自動車道、一般国道23号、近鉄山田線、JR参宮線等のこの地方の根幹をなす交通網があります。

伊勢神宮をはじめとした歴史的、文化的資産が多く存在し、今後も観光地として期待されている地域です。

▼ 流域市町村の人口と世帯数



流域市町村

- ・伊勢市 (旧二見町、旧小俣町、旧御菌村含む)
- ・玉城町
- ・多気町 (旧勢和村含む)
- ・度会町
- ・大紀町 (旧大宮町、旧紀勢町、旧大内山村)
- ・大台町 (旧宮川村含む)

出典：国勢調査



伊勢神宮内宮
(宇治橋)

3. 評価の視点 事業の必要性等に関する視点

4) 事業の進捗状況、進捗の見込みの視点

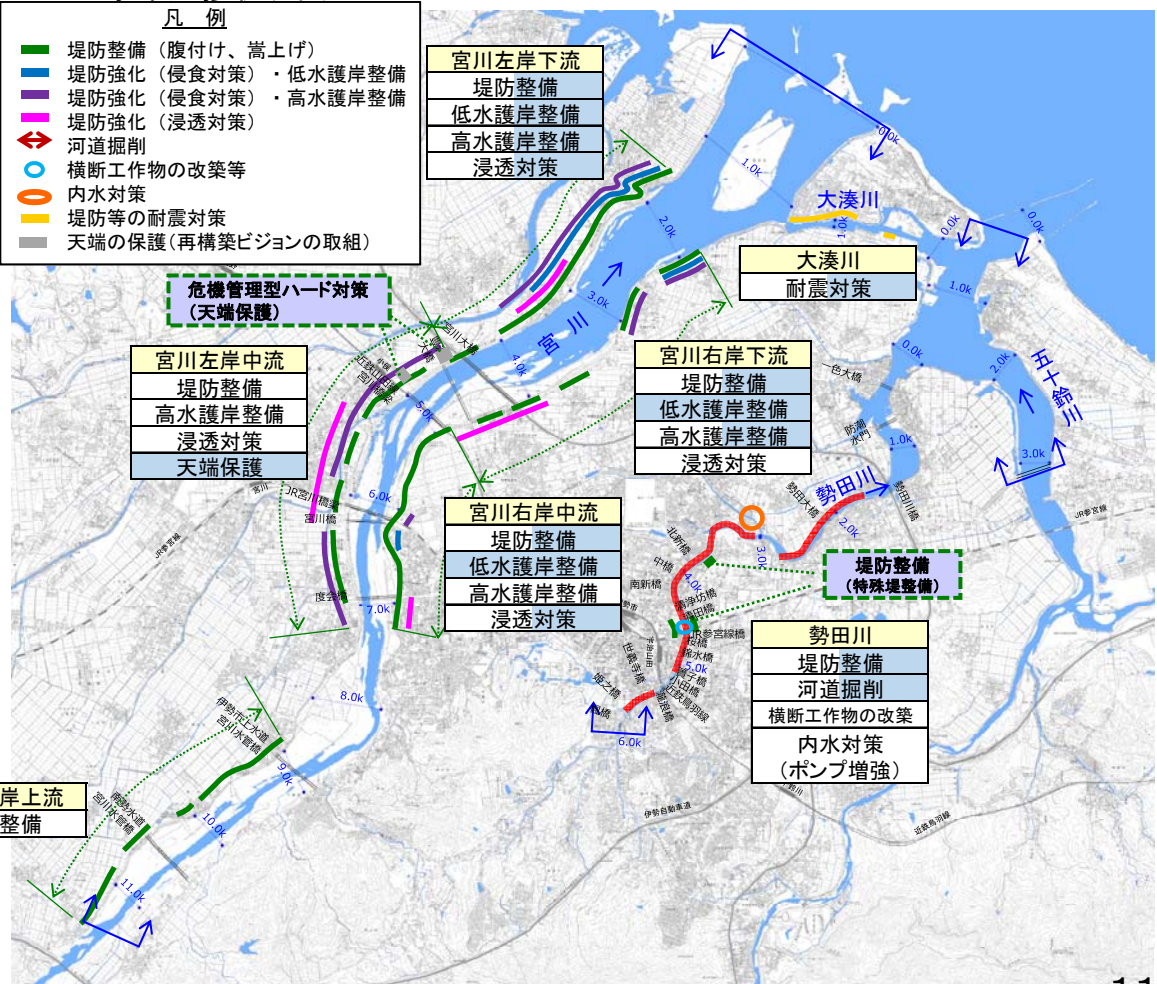
宮川では、基準地点の岩出地点において整備目標流量を安全に流下させるために、堤防整備を重点的に進めており、4年経過しました事業の進捗率は、事業費ベースで24%程度です。

堤防整備等を引き続き実施し、関係機関と十分な連携・調整を図りながら実施していきます。

▼ 河川整備計画での主な整備内容

河川名	整備項目	整備箇所	H30年度末時点 実施箇所
宮川	堤防整備 (腹付け、嵩上げ)	11.1km	2.2km
	低水護岸整備	2.4km	1.2km
	高水護岸整備	5.9km	0.9km
	天端保護	0.07km	0.07km
	堤防整備	0.6km	0.2km
勢田川	河道掘削	79千m ³	26千m ³
	横断工作物の改築	1橋	0橋
	内水対策 (桧尻川排水機場増強)	1施設	0施設
大湊川	堤防等の耐震対策	1.1km	0.2km

▼ 事業進捗状況図



凡例	
地区名	
未実施	
事業実施中	
事業実施済	

4. 県への意見聴取結果

三重県	本事業は、昨年、甚大な浸水被害が発生した宮川下流域における治水安全度向上、及び地震・津波被害を軽減するために重要な事業です。今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、宮川水系河川整備計画に基づき更なるコスト縮減をはかり、効果的な事業執行をお願いします。
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5. 対応方針（案）

以上のことから、宮川水系河川整備計画に基づく、宮川直轄河川改修事業を継続します。

6. 第21回三重河川流域委員会における審議

宮川直轄河川改修事業の再評価の対応方針（原案）について、「第21回 三重河川流域委員会」において審議をいただき、了承されました。委員からいただいた主なご意見は、以下のとおりです。

【開催日】 平成30年10月29日（月）

【開催場所】 三重県 津市
プラザ洞津 2階高砂の間

【開催内容】 事業再評価
宮川直轄河川改修事業



主なご意見

○H29台風第21号襲来による勢田川の浸水被害を踏まえ、宮川水系河川整備計画については、今後、見直しも含めて検討するとあるが、今後のスケジュールについて、どのように考えているのか。

→台風第21号被害を踏まえて策定した「勢田川流域等浸水対策実行計画」の中で、中長期的整備目標として「勢田川排水機場の現行排水量45m³/sを60m³/s程度に増強する」としているが、現行の宮川水系河川整備計画の整備内容には含まれていない。また、気候変動を踏まえた今後の治水計画のあり方について、現在、本省の技術検討会で検討中である。これらを踏まえた検討を今後実施していくことになり、案を提示できる段階になったら流域委員会で審議をお願いしたい。